

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1990100198		
法人名	社会福祉法人ひかりの里		
事業所名	グループホームめだかの学校・湯村		
所在地	甲府市湯村3-11-10		
自己評価作成日	平成23年10月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=19
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成24年1月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

第二の自宅として利用者様が暮らし、職員も交えて一つの大家族のような視点で老後の生活を支えて行く。公共の場であることも視野に入れ、地域や包括支援センターなどの公共機関とも連携し、近所づきあいのあるホームを目指してゆきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

元旅館を利用した建物で、3階にグループホームがある。事業所の玄関を入ると通路・ホールになっている。ホールのテーブルの上に花が生けてあり、散歩のように自由な時間を利用出来る空間がある。法人の事業所が別階に併設されているため協力体制が取りやすくなっている。面会などで来所した家族との写真を職員が撮り、個々の居室に飾りいつも家族の事を忘れないような支援をしている。また家族に郵送したり、写真のデータの希望があれば提供するなど細かな配慮の工夫を行なっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

事業所名 グループホーム めだかの学校・湯村

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「安心して笑顔で、一日一日を大切に過ごしていただく」という理念のもとに実践につなげるように努めている。	グループホームの理念は、法人の5つの姿勢と共に掲示している。5つの姿勢は朝礼時に職員全体で唱和している。グループホームの理念は月1回の処遇会議で再確認して共有している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	施設長が地域のお祭りの実行委員となったり、有価物当番などに参加することで、地域交流を行っている。	自治会に加入し、有価物の当番や、河川清掃、児童登校時の旗振り当番など地域交流を行っている。湯村の厄除け地藏尊の祭りには見学や買い物に行き、夏祭りにはトイレや駐車場を開放している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営会議での会話で実践例を話すことがある程度に留まっている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	散歩や外出などの話を出して、サービス向上に活かしている。	会議は2か月に1回行われ、サービス内容の説明、利用者の外出や外泊についての状況、行事等の報告をしている。地震の現状報告で地域との協力体制や、避難所の再確認、認知症サポートの呼びかけなど情報を共有しサービスの向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営会議で包括支援センターの職員と意見交換を行うに留まっている。	市にグループホームの介護保険の申請や更新を行なっている。月の状況について報告を行っている。特に問題はないが、法人としては市の担当者と関わっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	正しく理解しているとまでは言いがたいが、拘束廃止委員会の資料などで拘束防止に努めている。	グループホームの玄関は施錠していない。身体拘束もなく、センサーマットも使用していない。職員間でスピーチロックも拘束という共通の理解がされている。2か月に1回別階の特別養護老人ホームや他の事業所の代表者と共に拘束廃止委員会を開き、議事録を元に拘束防止を全職員で確認している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	処遇会議で話し合いを行うに留まっている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	包括支援センターの研修などで機会があれば学び、会議などで話せるときは話している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所事など、できるだけ懇切丁寧な説明を心がけている。			

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営会議で話し合う機会を持ち、要望などは運営に反映できるように心がけている。	個人的な要望にはその都度対応している。電話等での要望も実践している。運営会議の中で転倒、骨折した利用者について話し合いがもたれ、施設での今後について提案したところ、家庭からの理解と職員への信頼もあった為、大きな問題にはならなかった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	処遇会議で話し合いを行い、反映できるように努めている。	管理者は日頃から職員が意見を出せる雰囲気作りをしている。バスを利用した外出の要望があった際は、大型バスで登美の丘など甲斐市方面に外出している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境や、やりがいなどは持てるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内部研修や、包括支援センターの研修など参加することができている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの交流会や、ケアマネの交流会などに参加させていただいている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	できるだけコミュニケーションを図り、信頼が得られるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	できるだけコミュニケーションを図り、信頼が得られるように努め、ニーズが理解できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームへの入所が妥当であるかどうか、入所の際に検討し、モニタリングなどで再検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を楽しんでいる	洗濯たみや新聞折りなど、生活の中でできることをしていただくことで、共に暮らす関係に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	できるだけこまめに電話などで連絡をとり、共に支えていく 関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所 との関係が途切れないよう、支援に努めている	デイサービスに通う長女に会うことを検討など、関係が途 切れないように努めている。	週2回ほど面会の希望時間が夕食後と遅い利用者家族がいる が、継続出来るように配慮している。利用者と家族の一緒 の写真を撮り、居室に飾るなど楽しめるように支援してい る。写真は郵送したり、データを提供している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	特に努めているわけではないが、食事のテーブルの隣席 同士で会話をしている。 会話できる雰囲気がもてるよう努 めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の 経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居した後に忘れ物などがあれば、連絡して届けるように している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	家族に連絡して欲しいと訴える場合は、そのように努め、 買い物がかた場合は送迎を工夫するなど努めている。	編み物が趣味の利用者が毛糸を買いに出かけたり、外出し たいとか電話をかけたいという本人の意向を、家族の訪問 時に伝えたり、家族の状況を確認して職員間で対応してい る。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	本人や家族へのアセスメント、病院などのサマリーをみて 生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	ケース記録や支援経過を記録し現状の把握に努めてい る。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	家族や関係者と会った際、話合えるように努めているが、 現状に即した計画は、できるだけ作れるように努めている。	介護計画は、入居時の家族との面談の際に説明や話し合い をして作成している。モニタリングは、職員と日頃の状況の 中から吸い上げて記録し、処遇会議で検討して月に1回作 成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	処遇会議でできるだけ情報を出して共有できるように努め ている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	特養のレクリエーションやあるいは、看護師と連携することで、サービスの多機能化に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の話の傾聴に努めているが、左記のような心身の力を発揮しているかは判断しがたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からの医師を希望する場合は、そのように努めている。	事業所の医療機関が主治医として対応している利用者もいる。入所前から利用しているかかりつけ医に受診の場合は、家族に協力してもらい受診時の報告を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタル変化など医務記録へ残し、看護師と連携するよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護サマリーの提供、MSWとの連絡調整を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアの事例は無いが、早期の相談まで行っているとはいい難い。	利用者に対する救急対応については家族に搬送先の意向を確認している。終末期は病院か特別養護老人ホームに移ってもらうことにしている。法人が運営する特別養護老人ホームへの入所の申請もしてもらっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年法人内部研修において救急法など研修している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に施設全体での避難訓練を行っている。	同館内の施設と一緒に、昼間の想定で避難訓練を年間3回行っている。全館に放送が入り、エレベーターを使い一階に集合する。全職員が難経路を把握している。	グループホームの独自の避難訓練や、担当が一人になる夜間を想定した訓練、非常階段を使った訓練等、地域住民の協力を得ながらの訓練を実施することを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、プライバシーを損ねない言葉かけに努めている。	月1回、法人の甲府地区の事業所合同の研修で人権について話し合いがもたれており、施設長にレポートを提出している。声かけや支援が必要な時、本人の気持ちを損ねないように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている		テーブルを拭いていただけですか？ など本人が自己決定できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している		希望に配慮するように努めているが、なかなかニーズを把握していないのが現状。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している		できるという方もいるが(利用者)、おしゃれに努めているとはいいがたい。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている		お皿拭きなど後片付けはできる利用者さんが手伝ってくれる。	厨房から来たおかずとホームで炊かれた熱々のご飯が配膳される。利用者本人が好きなふりかけを家族から預かったり、減塩の利用者には病院からのアセスメントよりボン酢などに対応している。食後は、食器の片付けを手伝う利用者もいる。自力で出来る利用者は、洗面所で歯磨きをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている		脱水予防の必要な利用者さんには水分の記録をとり、嗜好に応じてヤクルトなど、家族に差し入れてもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている		毎食後の口腔ケアと夜間は義歯の洗浄を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている		排泄表を記入しているが、排泄リズムが捉えづらいのが現状。	排泄チェック表を作成して、排便状態や状況を記入している。数人自力排泄の利用者がいる。パット使用の利用者にも誘導し自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる		ヨーグルトやヤクルトを家族に差し入れてもらい、朝食後にトイレに誘導するなど行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている		週2回の定期入浴に留まっている。	週2回、定期的に併設の特別養護老人ホームで入浴を実施している。両事業所の職員が協力して介助している。	事業所内に個室の風呂が設置されているので、独自で入浴出来るよう、環境を整備して実施に向けての検討を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に休む利用者は、休めるよう努めている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方時の薬の説明の確認。受診の際の確認など行っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌の好きな利用者には歌を歌ってもらい、個人作業の好きな人には作業をしてもらう。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	帰宅願望のある人には散歩を行って、誕生日には家族が外食へ連れていったりしている。	暖かい季節には、戸外へ出かけている。帰宅願望のある利用者には付き添って出かけている。法人の運動会や夏祭り、買い物や地域の祭りにも参加している。北西中学校の生徒の訪問ボランティアがある。	元旅館の建物を利用しているため、ホームの入り口は広いホールになっている。屋外だけが戸外ではなく、広いホールを散歩の場所としての利用に期待したい。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこずかいを施設で管理してレクリエーションの際に利用している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	今後電話を希望する利用者さんには対応する予定。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花瓶に花を置くなど、季節感に配慮している。	食堂兼共有ホールには、生活写真や職員と利用者の手作りの紙細工や季節の行事の飾り付けがされている。テーブルには法人の清掃担当者が持参している生花が花瓶に飾られて華やかで明るい空間づくりがされている。ホールの一角にベッドやソファがあり、電話やポット、炊飯器などが置かれているなど自然で安心して過ごすことができる空間になっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の席は相性の良い人となるよう配慮している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使っていたものを置いていただけるように家族に伝えている。	壁に家族と一緒に写真が飾られ、また、鉢植えの花や観賞用の木などが置かれ落ち着いた雰囲気のある部屋になっている。持参したラジオや写真、衣装ケース、パイプのハンガー掛け、入り口のレースのカーテンなど家庭的な雰囲気がある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車イスの通る幅など考慮して、机など配置している。			